

教育委員会だより

令和7年4月23日号 多治見市教育委員会 教育総務課

くめざす子ども像
お互いを尊重し、
主体的に学び、
挑戦する多治見の子

大人も子どもも“挑戦”～R7教育行政の重点施策～

本年度は、第3次多治見市教育基本計画（R5～9）の3年次となります。新規事業も含め、確実に実施することで“挑戦”をサポートします。

本年度実施する主な施策を紹介します（下線部は、新規のもの）。

1 子どもの体力・学力を高める教育の充実

- (1) ICT機器の再整備とデジタル指導書導入による、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実、英語教育コーディネーターによる英語教育の底上げ
- (2) 部活・クラブ推進員の配置による部活・ジュニアクラブ・地域クラブの推進
- (3) 学校図書館司書の増員（6人→8人）

2 不登校減少をめざした学びの多様化への対応と子どもの居場所づくりの充実

- (1) 教育支援センターさわらびや校内教育支援室の機能拡充
（教室復帰支援及び、教室へ入りづらい子どもの居場所づくりや学びの保証）
- (2) 不登校児童生徒に寄り添うトライサポーターを増員（計6校）

3 笠原小中学校の開校準備と市小中一貫教育基本方針に基づく取組の推進

- (1) 笠原小中学校新校舎建設工事の完了と引っ越し、開校に向けた広報活動
- (2) 笠原小・中共通日課の試行、行事の共同実施や教科担任制等の実施
- (3) 中学校区懇談会や教育長訪問における幼保小中教職員の相互参観

4 家庭を支える事業の充実

- (1) 駅北庁舎3階の子育てフロアによる親育ちの支援（講習会、相談会等）
- (2) 中学校給食の無償化への準備、原材料費高騰に伴う給食費の財源確保の検討
- (3) 学童保育（たじっこクラブ）の充実

5 多様な課題に応じた支援の推進

- (1) インクルーシブ教育の推進による特別支援教育の充実
- (2) 医療的ケア児、肢体不自由児等の受け入れ態勢の整備

6 市制100周年に向けた多治見市史の編集

- (1) 既刊市史の見直し、考古学・歴史資料の新たな発見物や未調査資料の調査開始
- (2) 歴史資料のデジタル公開や「わかりやすい多治見市史」の刊行準備

7 教職員の働き方改革推進と働きやすい職場環境の改善

- (1) 「多治見市教職員の働き方改革2025」の実施（働きがいの重視）
- (2) スクールロイヤーによる法的な判断や助言を必要とする事案への相談体制整備

新たな教職員とともに挑戦！～転入教職員受入式～

今年度より多治見市に転入された先生方をお迎えする「転入教職員受入式」を、4月1日（火）にとうしん学びの丘エールで行いました。新たに5名の校長先生と9名の教頭先生、そして3名の新規採用の方を含め、合計48名の先生方を多治見市にお迎えしました。

教職員の代表として、養正小学校の伊藤校長が仙石教育長より辞令を受け、転入の挨拶と決意を表明しました。教育長からは、校長及び転入教職員に対して、3つの話がありました。1つ目は多治見市がめざす子ども像（挑戦する）についてです。2つ目は、困った時にこそ相談しあえる関係づくり（風通しのよさ）についてです。3つ目は、時代の変化とともに教育のスキルを進化させていく（アップデート）についてです。令和7年度は、市内21の小中学校7,140名（13小学校4,581名 8中学校2,559名）の児童生徒の学び（挑戦）を、全教職員で支えます。ご理解とご協力をお願いします。



幼保小中一貫教育に挑戦！～多治見型一貫教育～

いよいよ令和8年度の笠原小中学校の開校に向け、校舎建築が予定通り順調に進んでいます。写真は3月末に上空から撮影した新校舎の建設の様子です。ソフト面においては、笠原小学校・中学校が協議を重ね、今年度から1日のカリキュラムを調節して同じ時間割で生活したり、運動会などの行事を共同で実施する計画を立てたりして、8年度の開校のための準備を着々と進めています。

多治見市では、市内の8つの中学校区において、同じ地域の幼保小中がお互いの教育活動を見合い、目指す子どもの姿を共有し、教育の方向性を同じにして1人1人の子どもの教育を進めていく「多治見型一貫教育」に取り組んでいます。それぞれの教職員が互いの活動を参観したり、意見交流会を開いたりしながら、関係するすべての教職員が一緒になって子どもの成長を見守り、育んでいきたいと思っています。

